2026 年 11 月 1 日

第 24 回

JCGRコーポレートガバナンス調査（第24期）

JCGIndex Survey -Phase 2-

調査報告（70社版）

一般社団法人日本コーポレートガバナンス研究所：http://www.jcgr.org/
若杉敬明（University of Michigan Mitsui Life Financial Research Center）
（東京大学名誉教授）
大林守（国際基督教大学監事）
（専修大学名誉教授）
藤島裕三（上場会社役員ガバナンスフォーラム首席研究員）

アベノミクスのコーポレートガバナンス改革の下で、資本市場によるコーポレートガバナンスへの期待もすっかり変化しました。令和元年(2019年)より JCGR は導入から定着へと新しい段階に到達したわが国のコーポレートガバナンスの調査を再開いたしました。なお、2013年、東証と大阪証券取引所が株式市場を統合したのを契機に、東証は、上場会社の持続的な企業価値向上への動機付けを促進するために、市場区分の見直しに向けた検討を進めてきました。その結果、2022年4月4日、「プライム市場・スタンダード市場・グロース市場」の新市場区分がスタートしました。これにともない、JCGRはコーポレートガバナンス調査の対象を、プライム市場上場全企業に変更しました。さらに，2023年・第21回より、モニタリング・ボードを志向して質問内容を見直し、質問数を75問から51問に集約しました。

2026年7月には、東証の改定版コードが公表されました。新段階のコーポレートガバナンスを計測するJCGIndexの速報結果をご報告いたします。

1．調査の概要－質問項目の内容と分類－

コーポレートガバナンスにおける現代のベスト・プラクティスは、①独立社外取締 役を中心とする取締役会、②取締役と執行役員の分離、③指名、報酬および監査の 機能を用いた取締役会による執行役員に対する監督、および④経営の透明性の確保、と特徴づけることができます。JCGR CG原則は、これらを基本としています。

このようなモデルを前提として、JCGIndexサーベイの調査票は、5つのパートの質問から構成されます。

PartⅠ 会社の目標と最高経営責任者のリーダーシップ	10問
PartⅡ 取締役会と取締役	14問
PartⅢ 取締役会の監督 －指名・報酬・監査－	11問
PartⅣ 取締役会の運営	9問
PartⅤ 取締役会の実効性評価	7問

２．回答企業数について

2026年8月31日に、東証プライム上場の企業対象にコーポレートガバナンスに関するアンケート調査を開始し、速報集計時点70社から回答を得ました。回答にご協力いただいた各社に心よりお礼を申し上げます。

３．スコア算出結果について

回答いただいた70社について、スコアの集計を行いました。

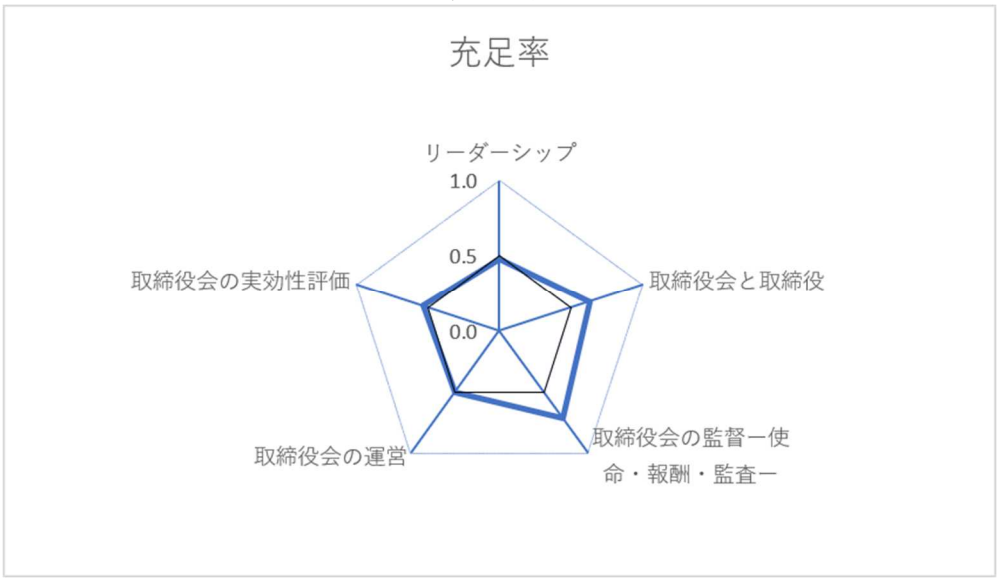
JCGR CG原則へのアライメントの程度を示すJCGIndexと各スコアは以下の通りです。

図表「パート別の得点」

評価の観点	全社平均（前年）	満点
会社の目標と最高経営責任者のリーダーシップ	8.9 (9.0)	18.8
取締役会と取締役	15.6 (15.2)	24.8
取締役会の監督 －指名・報酬・監査－	16.9 (16.4)	23.6
取締役会の運営	10.2 (10.2)	20.5
取締役会の実効性評価	6.6 (6.4)	12.3
合計（＝JCGIndex）	58.3 (57.3)	100.0

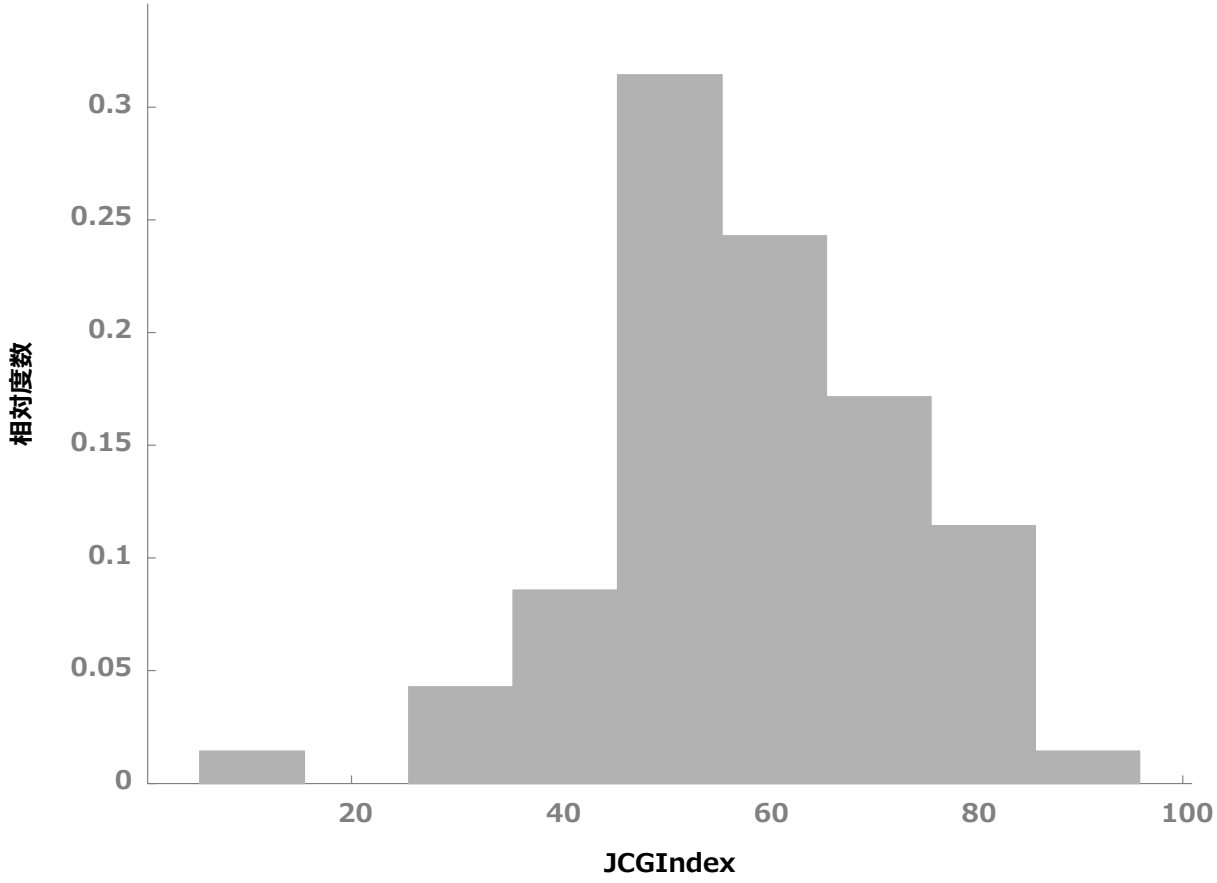
全社平均における充足率（スコア÷満点）は以下の通りです。

図表「充足率」

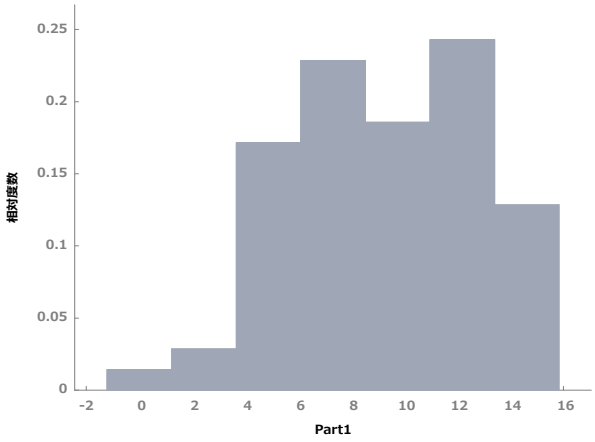


４．JCGIndex およびパート別得点の分布

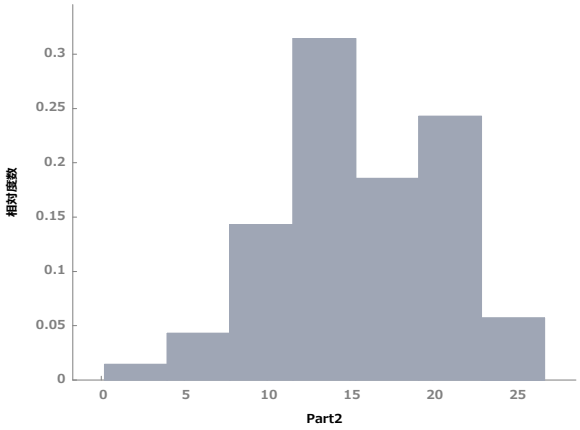
（１） JCGIndex（全体）



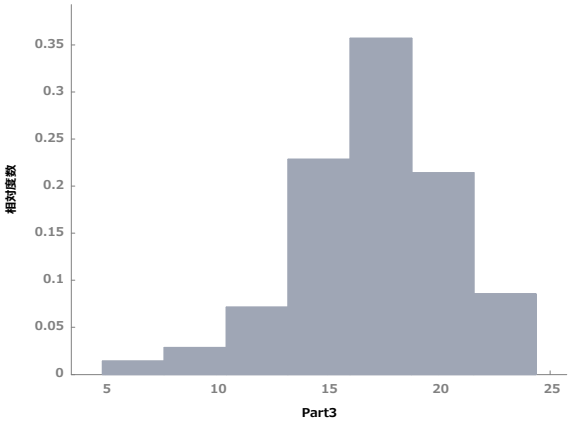
（２） 会社の目標と最高経営責任者のリーダーシップ



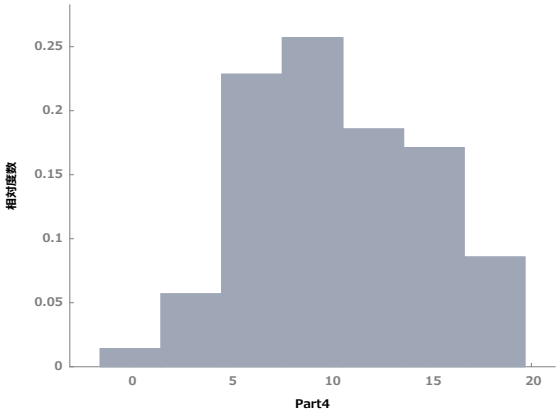
（3） 取締役会と取締役



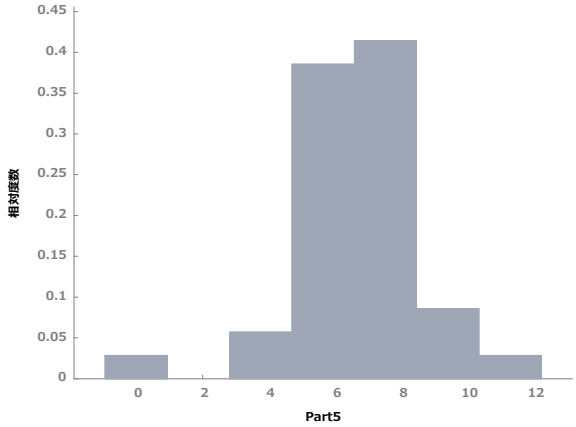
（4）取締役会の監督 －指名・報酬・監査－



（5）取締役会の運営



（6）取締役会の実効性評価



5．最終報告について

最終報告は回答会社リストおよび上位会社リストともに2026年12月下旬に発表の予定です。なお、回答会社のガバナンスを分析したフィードバックについては文書を送付することで実施する予定です。

以上

本調査は 2008 年よりUniversity of Michigan Ross School of Business Mitsui Life Financial Research Center の援助のもとに行われております。